

## ＜研究成果の紹介＞

## 飼料イネを給与して生産した牛乳の消費者価値

経営・植物工学グループ

## 1. 成果の内容

国産飼料である飼料イネの生産には、食料自給率を向上させるだけでなく、消費者にとって安心な畜産物を提供することにつながります。また、海外から多量の飼料が輸入され、これが最終的に家畜ふん尿となって国内の環境に負荷をかけていますが、飼料イネ生産はこれを軽減したり、国内の水田を健全に維持するなどの外部経済効果があると言われています。

そこで、このような評価がある飼料イネを牛の飼料として与えて生産される牛乳は、消費者にとってどのくらい価値があるのかを明らかにしました。この成果は、県民の皆様方の理解を得た飼料イネ生産の推進に役立てたいと考えております。

具体的には、県内の畜産交流施設を訪れた599名（回収数213）の方にアンケート調査を行い、この方々の牛乳（飼料イネを給与して生産）購買選好によって経済的価値を評価しました。アンケートでは、飼料イネを与えて生産した牛乳を想定してもらった上で、普段購入している牛乳より何円までなら高くても購入するかの支払い意志額を調査しました。なお、回答者には牛乳の製品・品質に関する情報として「稲をエサの約50%与える」・「飼料イネは輸入品と比べて安全であるとした証明はない」・「牛乳の品質は既存品と同じ」という内容を提示し、さら

に飼料イネ生産間接的に社会に貢献する情報として「飼料イネは国産であることから食料自給率が向上し、食料安全保障が図れる」・「海外から一方的に肥料成分を持ち込まないため環境負荷を軽減する」・「転作田を有効に活用でき水田を健全に維持できる」という内容を加えました。

その結果、既存品と比較して「飼料イネを給与して生産した牛乳」を高く買っても良いとする消費者の支払い意志額を生存分析（Kaplan-Meier法）により推計したところ、最高支払い意志額は30円/ℓと推計できました。この金額は、輸入飼料を飼料イネに代えて製造した牛乳の消費者価値の評価額です。

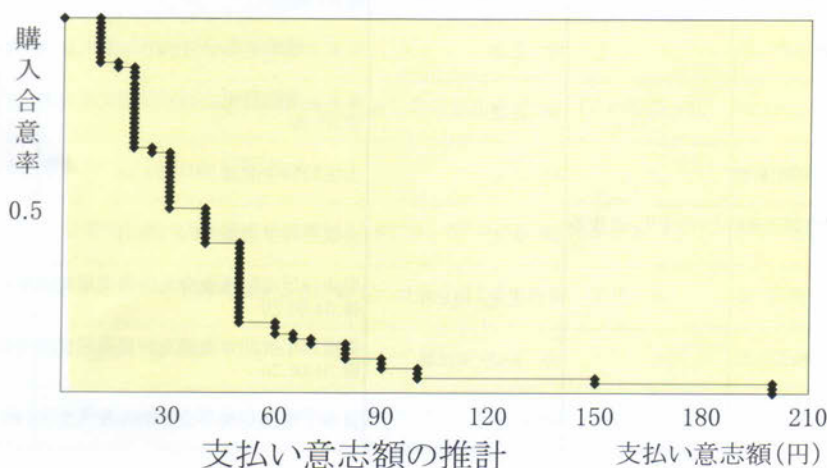
## 2. 技術の適用効果と適用範囲

行政機関では飼料イネ生産推進政策における基礎資料となります。また、生産サイドでは、飼料イネを給与して生産した牛乳の付加価値販売を企画する場合に参考となります。

## 3. 普及・利用上の留意点

餌としての飼料イネの存在とその意義を多くの消費者に正確に理解してもらうための具体的な方法を検討する必要があります。

(梶谷 齊)



注1) 生存分析にはKaplan-Meierの推定値を用いた。

注2) 分析対象データから、購入には合意するものの支払い意志額を0円とした回答のうち、「価値は認めるものの税金でまかなうべき」との回答は、「ただ乗り回答」として除外した (n=151)。

注3) 中央値は合意率が0.5の支払い意志額。なお、平均値は43.8円であったが、より妥当性が高いと言われる中央値を評価値として採用した。